

献 辞

小柴徹修教授のご退任によせて

小柴徹修先生は、2013年3月31日をもって東北学院大学をご退任されました。先生は、1974年3月に中央大学大学院経済学研究科博士課程を満期退学され、1974年4月より本学に経済学部助手として奉職され、教育・研究の歩みを始められました。その後、1976年4月に助教授、1983年4月に教授に就任され、39年間の長きにわたって教育・研究に精励されてこられました。2005年には博士（経済学）の学位を東北大学より取得されました。本学では、1996年から2年間、経済学部二部経済学科長、2002年から7年間、大学院経済学研究科専攻主任、2009年から2年間、大学院経済学研究科長を歴任され、経済学部及び大学院経済学研究科の充実・発展にご尽力されました。この間、多くの学生・院生を指導され、社会に有為の人材を送り出してこられました。

先生は「ベンチャービジネス論」や「中小企業論」を担当されました。講義では、「グローバル化・情報化・サービス化のもとでのベンチャービジネス活路への期待と課題を、アントレプレヌールシップ（起業家精神・行動）を切り口にして」明らかにされておられました。ベンチャービジネスをさまざまな側面から展開されたことで、起業家精神を大いに触発された学生も多かったように思います。

先生の研究関心は、グローバル化による国境を越えた貿易・直接投資と産業や企業取引の集積化・分散化が進むなかで、産业内貿易が著しく進展していることにありました。そのもとで日本企業のグローバルなネットワーク化の現状を理論的・実証的に分析され、私どもは多くのことを学ばせて頂きました。

また、先生は、東北経済学会会長、日本経済政策学会理事、日本計画行政学会の理事、東北アメリカ学会副会長をお務めになり、学会を通して日本における研究の進展や後進の育成に大いに貢献されました。さらに、岩沼市産業活性化審議委員もお務めになり、地域社会にも貢献されました。

小柴徹修先生のこうした学内外におけるご活躍とご貢献に対する敬意と感謝の意を込めて、また今後の先生のご健勝を大いに祈念し、『東北学院大学経済学論集』182号をご退任記念号として先生にお捧げいたします。

経済学部長 原 田 善 教

献 辞

山崎和郎教授のご退任によせて

山崎和郎先生は、2013年3月31日をもって東北学院大学をご退任されました。先生は、1973年3月に上智大学大学院経済学研究科博士課程を満期退学されるとともに、本学に経済学部助手として奉職され、教育・研究の歩みを始められました。その後、1976年4月に助教授、1986年4月に教授に就任され、40年間の長きにわたって教育・研究に精励されてこられました。本学では、1994年から2年間、経済学部経済学科長に就任され、経済学部と大学院経済学研究科の充実・発展にご尽力されました。この間、多くの学生を指導され、社会に有為の人材を送り出してこられました。

先生は「産業組織論」を担当されました。講義では、「競争が適切に行われていない市場はほとんど例外なく多くの弊害が出てくると考えられている。経済活動においてなぜ競争が必要なのか、またどのようにすれば競争的な市場が実現できるのか」という問題意識の下に、完全競争モデル、不完全競争モデル、産業政策について平易な語り口で論じられ、数学の苦手な学生にも理解できるように工夫され、学生から人気のある講義でした。

先生の近年の研究関心は、情報通信市場における競争政策にありました。先生は、ご退任の挨拶において、「やり残している研究領域がまだまだたくさんある。これからの時間はそれらの課題に向けられることが楽しみである」と述べられました。今後の研究成果を私どもにお示し頂き、導いて頂きたいと存じます。その意味で、先生はまさに私どもが見ならうべき研究者であると思っています。

また、先生は、日本計画行政学会の理事をお務めになり、学会を通して日本における研究の進展や後進の育成に大いに貢献されました。

山崎和郎先生のこうした学内外におけるご活躍とご貢献に対する敬意と感謝の意を込めて、また今後の先生のご健勝を大いに祈念し、『東北学院大学経済学論集』182号をご退任記念号として先生にお捧げいたします。

経済学部長 原 田 善 教

献 辞

原证明教授のご退任によせて

原证明先生は、2013年3月31日をもって東北学院大学をご退任されました。先生は、1973年3月に東北学院大学大学院経済学研究科博士課程を満期退学され、1973年4月より本学に経済学部助手として奉職され、教育・研究の歩みを始められました。その後、1976年4月に助教授、1987年4月に教授に就任されました。1973年から40年間の長きにわたって教育・研究に精励されてこられました。本学では、1993年には、経済学部経済学科長に就任され、経済学部と大学院経済学研究科の充実・発展にご尽力されました。この間、多くの学生・院生を指導され、社会に有為の人材を送り出してこられました。また、2007年から就職部長に就任され、大学の管理運営にも貢献されました。

先生は「経済史」、「西洋経済史」を担当されました。講義の中では先生が所蔵している歴史的な事象を示すさまざまな証拠を提示し、我々は「いま」だけを生きているわけではない、歴史の積み重ねの中で生きていることを明らかにし、現代の社会に通じる歴史のダイナミズムを熱を込めて語られておられました。そうした歴史に対する深い造詣に多くの学生は憧憬の念を抱いていたように思います。

先生の研究関心は、中世のヴァイキングに関することでした。そこから、イングランドやスコットランドについての知識も豊富で、ティータイムにさまざまなこととお話し頂いたことを思い出します。

また、先生は、仙台地方裁判所委員会委員もお務めになり、地域社会に貢献されました。

原证明先生のごこうした学内外におけるご活躍とご貢献に対する敬意と感謝の意を込めて、また今後の先生のご健勝を大いに祈念し、『東北学院大学経済学論集』182号をご退任記念号として先生にお捧げいたします。

経済学部長 原 田 善 教

献 辞

増田周二教授のご退任によせて

増田周二先生は、2013年3月31日をもって東北学院大学をご退任されました。先生は、1976年3月に中央大学大学院経済学研究科博士課程を満期退学され、1976年4月より四国学院大学文学部講師として奉職され、教育・研究の歩みを始められました。その後、1983年4月に本学に経済学部助教授として着任され、1987年4月に教授に就任されました。本学では30年間の長きにわたって教育・研究に精励されてこられました。本学では、2000年から2年間、経済学部経済学科長に就任され、経済学部と大学院経済学研究科の充実・発展にご尽力されました。この間、多くの学生・院生を指導され、社会に有為の人材を送り出してこられました。

先生は「社会問題論」や「社会病理学」を担当されました。講義では、ドメスティック・バイオレンスや子どもの虐待などの問題を取り上げられ、病める現代社会の問題点を抉り出しておられました。先生は、本学の出身であり、敬虔なクリスチャンでありました。クリスチャンとして常に社会的弱者の視点に立って講義され、先生の講義から現代社会の問題に気づかされた学生はたくさんいたように思います。

先生の研究関心は、社会福祉政策とその歴史、ドメスティック・バイオレンスから児童虐待、ポストモダニズム、サブカルチャー論と幅広く、いつも多くのことを教えて頂きました。

また、先生は、仙台市史編纂調査分析委員をお務めになり、地域社会にも貢献されました。

増田周二先生のこうした学内外におけるご活躍とご貢献に対する敬意と感謝の意を込めて、また今後の先生のご健勝を大いに祈念し、『東北学院大学経済学論集』182号をご退任記念号として先生にお捧げいたします。

経済学部長 原 田 善 教